

法師品十五箇の大事

第一 法師ほっしの事

御義口伝に云はく、法とは諸法なり、師とは諸法が直ちに師と成るなり。森羅三千の諸法直ちに師と成り弟子となるべきなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は法師の中の大法師なり。諸法実相かいかくの開覚顯はれて見れば、地獄とうねんみょうかの灯燃 猛火乃至仏果に至る迄悉く具足して一念三千の法師なり。又云はく、法とは題目、師とは日蓮等の類なり。

第二 成就大願 愍衆生故みんしゅじょうこ○生於惡世しょうおあくせ 広演此經こうえんしきょうの事

御義口伝に云はく、大願とは法華弘通なり、愍衆生故みんしゅじょうことは日本国の一切衆生なり、生於惡世しょうおあくせの人とは日蓮等の類なり、広とは南閻浮提なんえんぶだいなり、此經とは題目なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るものなり。

第三 如来所遣にょらいしよけん 行如来事ぎょうにょらいじの事

御義口伝に云はく、法華の行者は如来の使ひに来たれり。如来とは釈迦、如来事とは南無妙法蓮華經なり。如来とは十界三千の衆生の事なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは眞実の御使ひなり云云。

第四 与如来共宿よにょらいぐしゆくの事

御義口伝に云はく、法華の行者は男女共に如来なり。煩惱即菩提・生死即涅槃なり。今日蓮等の類たぐい南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は与如来共宿ふだいしの者なり。傳大士の釈に云はく「朝々ちやうちやう仏と共に起き、夕々せきせき仏と共に臥す。時々ふに成道し、時々ふに顯本す」云云。

第五 是法華經ぜほけきやうぞう 蔵深固幽遠じんこゆおん 無人能到むにんのうとうの事

御義口伝に云はく、是法華經蔵とは題目なり、深固とは本門なり、幽遠とは迹門なり、無人能到とは謗法なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は無人能到の者に非ざるなり云云。

第六 聞法信受もんぼうしんじゆ 随順不逆ずいじゆんふぎやくの事

御義口伝に云はく、聞とは名字即なり、法とは題目なり、信受とは受持なり、随順不逆とは本迹二門に随順するなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者の事なり。

第七 衣座室えざしつの事

御義口伝に云はく、衣座室とは法報応の三身なり。空仮中の三諦、身口意の三業なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は此の三軌きを一念に成就するなり。衣とは柔和忍辱の衣にゅうわにんにく、当著忍辱鎧とうじゃくにんにくがい是なり。座とは不惜身命ふしゃくしんみょうの修行なれば空座に居するなり。室とは慈悲に住して弘むる故なり。母の子を思ふが如くなり。豈一念に三軌を具足するに非ずや。

第八 よくしゃしよ けだい おうとうちよう しきょう 欲捨諸懈怠 应当聽此經の事

御義口伝に云はく、諸懈怠とは四十余年の方便の經教なり。悉く皆懈怠の經なり。此經とは題目なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは是即ち精進なり。おうとうちよう 应当聽此經は是なり。応に日蓮に此の經を聞くべしと云へり云云。

第九 ふもん ほ けきょう こぶつ ちじんのん 不聞法華經 去仏智甚遠の事

御義口伝に云はく、不聞とは謗法なり。成仏の智を遠ざかるべきなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、仏智開悟の者にして成仏の近き故なり。

第十 にやくせつ しきょう じ うにんあつく め かとうじょう がしゃく ねんぶつ こおうにん 若説此經時 有人惡口罵 加刀杖瓦石 念仏故應忍の事

御義口伝に云はく、此經とは題目なり、惡口とは口業なり、加刀杖とは身業なり。此の身口の二業は意業より起こるなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は仏勅を念ずるが故に應忍とは云ふなり。

第十一 ぎっしょうしんじによ くようおほつし 及清信士女 供養於法師の事

御義口伝に云はく、士女とは男女なり、法師とは日蓮等の類なり、清信とは法華經に信心の者なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は是なり云云。此諸天善神等男女と顯はれて、法華經の行者を供養すべしと云ふ經文なり。

第十二 にやくにんよつ かあく どうじょうぎゅう がしゃく そくけんへんげにん いし さえご 若人欲加惡 刀杖及瓦石 則遣变化人 為之作衛護の事

御義口伝に云はく、变化人とはたつのくち 竜口の守護八幡大菩薩なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者を守護すべしと云ふ經文なり。

第十三 にやくしんごんほつ し そくとく ほ さつどう 若親近法師 速得菩薩道の事

御義口伝に云はく、親近とは信受の異名なり、法師とは日蓮等の類なり、菩薩とは仏果を得る下地なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者の事なり。

第十四 ずいじゆん ぜ し がく 隨順是師学の事

御義口伝に云はく、是師とは日蓮等の類なり、学とは南無妙法蓮華經なり、隨順とは信受なり云云。師学と云ふ事は、師とは日蓮等の類。学とは一念三千なり。師も学も共に法界三千の師学なり。

第十五 とっけんごうじゃぶつ 得見恒沙仏の事

御義口伝に云はく、見恒沙仏とは見宝塔と云ふ事なり、恒沙仏とは多宝の事なり、多宝の多とは法界なり、宝とは一念三千の開悟なり。法界を多宝仏と見るを見恒沙仏と云ふなり。故に法師品の次に宝塔品は来たるなり。げぎょうしやう 解行証の法師の乗り物は宝塔なり云云。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは、たぐい 妙解・妙行・妙証の不思議の解、不思議の行、不思議の証得なり。眞実一念三千の開悟なり云云。此の恒沙と云ふは、悪を滅し善を生ずる河なり。恒沙仏とは一々の文々皆金色の仏体なり。見の字之を思ふべし。仏見と云ふ事なり。隨順とは仏知見なり。得見の見の字と見宝塔の見とは依正の二報なり。得見恒沙の見はしょうほう 正報なり。見宝塔の見はえほう 依報なり云云。